INFORMATION

松岡ミチヒロ個展
『BIZARRE ANIMALS』

2021 年 12 月 15(水)
～ 27 日 (月)
新宿髙島屋 10 階美術画廊
東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-24-2
※営業日・営業時間・営業フロアは変更になる場合があります。

『粘土でつくる空想生物 ― ゼロからわかるプロの造形技法』の著者である松岡ミチヒロさんの個展です。
金属、革といった異なる素材感を粘土だけで表現する技術力、躍動感のある造形が生み出す自由なファンタジーの世界。石粉粘土の魔術師ともいうべき松岡さんの個展は必見です。（羽関チエコ）

山口景子　1 月と 2 月に個展開催

山口景子の仕事部屋・展
―創作人形と針仕事―
2022 年 1 月 25 日 (火) ～ 30 日 (日)
ノリタケの森ギャラリー第一展示室
名古屋市西区則武新町 3-1-36
TEL 052-562-9811
月に、星に思いを馳せ、惑星の色をビーズでイメージして制作。
人形以外も仕事部屋から、想像のかけら、ブローチやストール等
約 45 点出品予定。

山口景子作品展　―遠い星の声―
2022 年 2 月 4 日（金）～ 9 日 (水)
銀座人形館　エンジェルドールズ
東京都中央区銀座 7-9-16　銀座ロータリービル 2F
TEL 03 ― 5537 ― 5534

ドールワールド フェスティバル 2022
出展者募集

6 月に開催予定のドールワールドフェスティバルの出展受付は
1 月から先着順で始まります。

ドールワールドフェスティバル 2022
2022 年 6 月 18 日［土] 13:00 ～ 17:00
都立産業貿易センター 浜松町館 4 階［全室］入場無料
募集について
詳細は 1 月中旬にホームページにて発表。前回、前々回に参加された方と、事前に資料請求された方に 2021 年 12 月下旬に資料を郵送。新規の資料請求は、問合せ先に電話またはメールで。
出展料
［1 ブース］180 × 90cm
作家（個人 or グループ）17,000 円（税込）
［半ブース］90 × 90cm　※ 1 ブースを半分に分けて使用する相席形式　作家（個人のみ）　9,000 円（税込）
問合せ ドールワールド NAW 実行委員会
TEL　090-4541-5634（担当：小川）
E-mail　mikuni-bd@nifty.com
URL　http://dwf.d.dooo.jp/dw_index.html

クラフトアート創作人形展
（第 9 回クラフトアート人形マッチングコンクール本選）

東京展　2022 年 2 月 6 日（日）～ 12 日（土）
東京交通会館 B1F ゴールドサロン
大阪展　2022 年 3 月 9 日（水）～ 14 日（月）
阪急うめだ本店 9 階アートステージ
※開催時間をご確認の上ご来場ください。
問合せ　クラフトアート人形コンクール実行委員会
info@craft-art-doll.com

コヤーラ・クラブ入会条件

入会金なし　年会費 2000 円　（更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円になります。）
年 4 回、チーム・コヤーラのニュースレター「KOYAALA 通信」が届きます。
KOYAALA 通信発行時期　3 月 1 日、6 月 1 日、9 月 1 日、12 月 1 日

お申込方法
ゆうちょ銀行の振替口座に年会費 2000 円をご送金ください。
口座名　チーム・コヤーラ
ゆうちょ銀行から　00140-7-358370
他銀行から　〇一九店（ゼロイチキユウ店）0358370
※電信送金の方は「〒番号・住所・お名前（本名）・電話番号」もあわせてお知らせ下さい。
・ご入金が確認ができたら、チーム・コヤーラ事務局から最新号と受領証を兼ねた会員証をお送りいたします。次号の発行が直近の場合は、翌号からお送りいたします。
・更新時には、有効期限となる号に更新のお知らせと振替伝票を同封してお知らせいたします。

DM 同封希望の方へ（次の発行日から 3 ヵ月の間に展覧会を予定されている方）
事務局に枚数と〆切をお問い合わせのうえ、発行日の 10 日前までにお送り下さい。発行後に請求書をお送りします。
同封料金　コヤーラ・クラブ会員 2000 円　一般（非会員）3000 円

個人情報について
お預かりしている個人情報はチーム・コヤーラの事務局業務を担当する羽関オフィスが厳重に管理いたします。名簿は「KOYAALA 通信」発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿って有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用しません。チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧・使用することはありません。

チーム・コヤーラ事務局
189-0003　東京都東村山市久米川町 3-27-57 羽関オフィス内
TEL 042-395-7547（担当　はぜき）
URL　http://koyaala.jp　Email team_koyaala@yahoo.co.jp
KOYAALA 通信　編集責任者　羽関チエコ
© KOYAALA TSUSHIN 2021, printed in Japan　本地記載の記事・画像の無断使用・転載を禁じます。

KOYAALA 通信 No.48
Dec. 2021

KOYAALA 通信は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。発行日 3 月 1 日、6 月 1 日、9 月 1 日、12 月 1 日

特集　人形の仕舞い方　―人形の「その後」はどうなる―

9 月に開催した MISOROGI 人形展（丸善丸の内本店ギャラリー）で、入口中央に竹で作ったヒトガタの骨組みを設置しました。会場美術の一環のもので、会場では「ヒトガタつくりに参加してください」と呼びかけましたが、宗教的な目的はありません。神社で引いたおみくじを結ぶ習慣になぞらえ、来場者に紙や布切れをその骨組みに結びつけてもらいました。しかしコロナ渦での開催でしたので、主催者としてはコロナ平癒を思う気持ちもありました。

一切れ一切れが重なり、他者の思いを引き受け「かたち」を得ていくヒトガタの姿に、人形の意味を改めて見た思いがしました。最終日には、思いもかけず「少女」のように見えるヒトガタができました。

会期が終わった後のヒトガタの処分方法は粗末にしたくないという思いから、お焚きあげを考えていました。いざ神社に問いあわせると、それが難しいことがすぐにわかりました。そもそも人形供養を扱っている神社仏閣が限られること、扱っているとしても大きさなどの制限があり、受付時期も限られます。解体して普通のお焚きあげに出すのも難しそうでした。
問い合わせをするなかで、田無神社（東京都西東京市）に人形供養セット（人形祓い）があり、それを使えば自分で供養できると知り 600 円で入手しました。

「人形祓詞（ひとがたはらえことば）」を唱え、小さな御幣のような「祓麻（はらえぬさ）」をふり、小さな紙片の「切麻（きりぬさ）」をふります。それで人形の御霊は天に還るのだそうです。その後は自治体の定める方法にて処分して下さい、とありました。しかし神様のお墨付きを頂いてもゴミ袋に入れて処分するには忍びないというのが本音です。

お焚きあげ前のヒトガタ

初日前日のヒトガタ

展示最終日の出品者との記念撮影

燃やす必要はないですが、もとよりこのヒトガタは火の力で土に還したいと思っていたので、材料は竹、紙、布だけにしていました。たき火が禁止されている昨今、ヒトガタを燃やす場所探しは少し難儀しましたが、知人の畑で短時間で済ませることができました。

一連の記録を動画にしたので、こちらでご覧になれます。後日談ですが、偶然とはいえこのお焚きあげをした頃から、コロナ感染者数が激減しました。

ヒトガタのお焚きあげ　動画
https://www.youtube.com/watch?v=jvfHoUjiwXQ

特集　人形の仕舞い方　―人形の「その後」はどうなる―

制作者とコレクターへのアンケート

できれば避けたいトピックが、人形の処分法方法。収納場所の限界や終活などで人形を所有できなくなった時、制作者は、コレクターの方はどのように考えるでしょうか。主にコレクターアイテムとしての人形やぬいぐるみの「その後」について、FANTANIMA! や MISOROGI 人形展の出品者、チーム・コヤーラの SNS を通してアンケートをとらせていただきました。（結果は右頁）

回答募集期間　11 月 12 日～ 22 日の 10 日間調査　回答 39 人

自作の処分となる作り手の場合は、やはりできる限り保管をして手直しや材料への解体を通していくという回答が多数です。一方「ゴミとして廃棄」とするのは作者だからできる方法かもしれません。土に還る材料であれば、土葬のように土に埋めるという選択肢もあるでしょう。コレクターの場合は、「譲渡先を探す」が「できるだけ保管」を上回ります。「転売」も含めると、ほとんどの方に人形を残存させる意志があります。ゴミとして処分するとした方の回答にも「処分場に行って自分の手で焼却炉に入れる」ことで、人形をしっかり見送る思いが感じられます。以下、回答にあった処分法について参考情報を補足してみました。

人形供養

人形供養の起源については諸説あるようですが、全国的に普及したのは明治時代末期から昭和時代にかけて、東京で帝国小学校･幼稚園を創設した西山哲治（1883-1939）が、児童教育の一環として始めた人形供養がきっかけだったようです。

人形の寺と知られる京都の宝鏡寺でも人形供養に取り組むのは昭和 30 年代に入ってからであり、明治神宮の人形感謝祭も平成元年（1989 年）からです。史実をどこまで確認できるかわかりませんが、それまでの人形は普通にゴミとして処分されていたと聞いたこともあります。しかし人形を「ゴミ」として捨てられない心理からの需要があったのでしょう、今は人形供養を受け付ける神社仏閣は多く、ビジネス化しているのではないかと思えるほどです。料金や受付方法は様々ですが、だいたいが人形本体のみをダンボール箱に入れて供養料と一緒に送るようになっています。

人形買取を宣伝する新聞折り込みチラシ

そうやって人形供養が広まった背景には、暮らしのなかで一般庶民が持てる人形の数や種類が増えていったことがあると思います。たぶん近代になるまでは貴族や富裕層でない限り、ひとびとが持てる人形は紙や土、布のように耐久性のない素朴なもので作られ、自然に土に還ったのではないでしょうか。呪術的な意味で川や海に流すこともあったと思いますが、人形は供養するまでもなく朽ちていったのがほとんどだったのではと推測します。

棺に入れる

昨年身内が亡くなったときに棺に人形を入れることになりました。その人形は石粉粘土を使ったもので、石の成分のためか灰になりきりませんでした。係員の方はそれは骨壺には入れませんでした。人形を棺にと思う方は多いと思います。火葬場としては燃えにくい、または有毒ガスを出すものは NG だそうです。

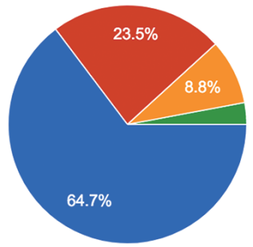
譲渡先、寄贈先を探す

最近では創作人形もヤフオクなどで見かけるようになりましたし、ギャラリーなどでもセカンドオーナーを探す作品を見かけます。作家側から見ると心穏やかではないかもしれませんが、徐々に日常化しています。その場合は転売でないことの表明や元の価格から極端に下げない配慮が必要だと思います。

寄贈先については、博物館などの施設においても収容場所の問題を抱えているところが多いようですし、寄贈するには作品の評価が相当高いことが前提となります。

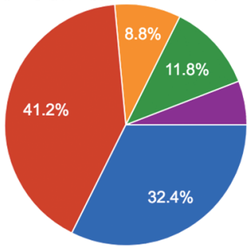
人形を神社仏閣や引き取りサービスに任せて安心するのも、効率的な解決策でしょう。しかし人形供養が普及して 100 年あまりの習慣でしかないことを考えると、自分なりに真心を込めて処する方法でも十分かと思います。大切に作られた人形、大切に慈しんだ人形を、自分なりに感謝の気持ちを込めて送ってあげれば、もし人形に心があったとしても感謝するのではないでしょうか。

販売・譲渡以外に人形を手放す場合（制作者）



【廃棄・処分の方法】
供養塔／ごみの日に出した／素材に応じてゴミとして廃棄／販売出来ない作品は破壊して庭に埋める／自分の棺に入れてもらう／今までありがとうと心の中で言ってゴミ袋に入れて処分する／自分なりに供養して、できるだけ元の材料別に分解して処分する／人形供養に出す

人形を手放す場合（コレクター）



【廃棄・処分の方法】
どなたかもらっていただける方を探す／ゴミ処分場へ行って自分の手で焼却炉へ入れる／災害などどうしようもない壊れ方であれば、人形供養的な方法で送ると思う

制作者の「その後」に関する回答（左の設問に対して）

リメイクして使う／できる限り保存（同回答多数）／諦められるものは材料に戻す。経験を積んだ素材がさらに経験を積むと思えば良いかと。材料として保管し引っ越しの際に処分する場合もあり／①自分が元気な場合には、対象の作品を解体し、新たな作品につなげられればと思う②自分に何かあった場合には、すでに決めている譲渡先にお願いする。／自分の作品は、ありがとう！と言って解体する。

フリー回答（制作者・コレクター）

【手放さない】
手放すことはない。（2）／何かあった時は一緒に棺に入れてもらう様に家族にお願いしている。たぶん 10 棺は必要。

【希望】
誰かに可愛がられて幸せになって欲しい。／作家の立場からだと、譲渡先や転売先を見つけていただき、なるべく付属品等元のままであってほしい。／世代を超えて大切にしてくれる人のもとにいてほしい。

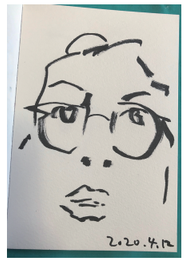
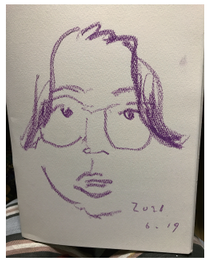
【方針】
想いがあってなかなか手放せない。引っ越しなどあれば供養塔に納める。／自分では大量生産ものしか買わないようにしている。／人の形をしていても所詮はモノでしかないので廃棄しやすい素材で、なおかつ有毒物質を発生させない素材であるのが望ましい。後世に残るものは残るべくして残る。／人形供養は良いシステムだと思う。／田舎の住宅事情からすれば納屋などで一生保管は可能。／一人暮らしなので、万が一の場合はギャラリーや作者のところに戻ってくれるよう、連絡がつくようにしている。／人に想われた人形は魂が宿ると思うので、できることならきちんと供養してあげるのが良い。／いつか朽ちるけど、できる限り修復していきたい。／自分より後まで残るものだから、なるべく箱や買った時の記録を残すようにして情報も残したい。／人形に任せます。

【わからない・不安】
作家さんの作品は一点物なので、自分も手放したくないし、年をとって動けなくなった時どうすれば良いか、答えが出ない。／行く先を決めてあげられず、またずっと保管してあげられず申し訳ない気持ち。／自分が亡くなった後にゴミのように処分されるのではないかと心配。／棺に入れて一緒に火葬しが理想だけど入りきらない。特別愛着のあるものは残して、あとは自分の手で始末をつけることが理想。 しかし売ることにはためらいがある。貰い手がなければ人形供養に出すか… 。

コヤーラ会員リポート　自画像を毎日。　クサボン（北九州市）

チーム・コヤーラのメンバーだったクサボンさん。母上の介護が中心の生活となるなかで、作家活動を続ける近況を書いていただきました。

チームコヤーラのメンバーとしての活動を離れしばらく経った。変わらないことといえば、何かしら作り続けていること。

母の介護などが生活の中心になった今は、わずかな隙間時間がお宝。洗濯待ちをしながら、洗濯機の横で絵を描いたり、おでんの味が沁みるまで、お鍋の横でミシンをガタゴト。
寝る前に粘土を触ってみたり。
コロナ自粛期間から始めたのが「気まぐれ自描き日記」。
気まぐれな日、気まぐれな時間、鏡に向かい自分の顔を描くというシンプルなもの。思うようにことが運べなかった日も、イライラがピークに達した日も、もどかしい日もこの一枚でなんとなく気持ちが整い罪悪感から少しだけ解放される。
最初は 10 分くらいかかって描いていた絵も、今では洗面所で、目覚めに、洗顔ついでに、寝る前に、15 秒くらいで描くようになった。どの顔も違うのにどの顔も私。
疲れていたり、しかめっ面していたり、なんか決意した様な表情だったり。自分の顔を描く時、大概覗き込む様な表情だから愛想がまるでないなとか色々気づかされているところ。
私にとって、いつでも人形を作れるように、基礎運動みたいなものかもしれない。最低 10 年くらいは続けてみようかな？そしたら何かしら発見があるかな？と漠然と思ったりしている。

家族や自分自身が歳を重ねていく上で、体調や状況も変わりなかなか以前の様な生活リズムでは過ごせなくなったりするもんだなぁーと日々感じている。
長い間夜型だった私も、母の生活リズムに引っ張られ少しだけ早く眠れるようになった。
この先もきっと色々あることでしょう。その都度、自分は今どんな顔してるんだ？と鏡を覗き込んでやろうと思う。